ふりがな　いい　まさこ

氏 名　**井伊　雅子**

1. 学歴

1986 年　3 月　国際基督教大学教養学部卒業

1993 年 12 月　ウィスコンシン大学マディソン校経済学部 博士課程修了，博士号取得（Ph. D., Economics）

2. 職歴・研究歴

1990 年 7 月　米国，ワシントン DC　世界銀行調査局研究員

1995 年 4 月　横浜国立大学経済学部　助教授

2004 年 4 月　一橋大学大学院国際企業戦略研究科　教授

2005 年 4 月　一橋大学大学院国際・公共政策大学院　教授

2010 年 1 月 – 2014 年 3 月 東京大学　公共政策大学院　医療政策ユニット　特任教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

医療経済論

（b）大学院

Microeconomics for Public Policy

Fundamentals of Econometric Methods

Economic Analysis of Social Policy

公共支出論

B. ゼミナール

学部，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部では東京医科歯科大学との連携講義で医療経済論，2018 年度からはゼミナールも担当。

大学院は主にアジア公共政策プログラムで統計・計量経済学，ミクロ経済学の講義，社会政策の経済学など（英語による）を担当している。公共政策大学院で日本語の講義（公共支出論）を担当する年もある。

専門職大学院の教育として，理論と現実の政策の接点に重点をおいて講義を行っている。

4. 主な研究テーマ

(1)不確実性下の医療：情報と合理的意思決定の分析

(2)質と財政の両立を目指した医療制度構築（プライマリ・ヘルス・ケアのシステム）のための基盤研究

(3)費用対効果分析

(4)医療費統計の国際比較

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書･編著

『医療サービス需要の経済分析』井伊雅子･大日康史，日本経済新聞社，2002 年

『アジアの医療保障制度』 東京大学出版会，2009 年

（b）論文（査読つき論文には*）

*"Community Perceptions and the Demand for Health Services：El Salvador,"(with Susan Kolodin) *Inter-America Development Bank Working Paper*,1994.

"Japanese Health Care Reform in the Context of a Rapidly Aging Population," *Health Sector Reform in Asia, Proceedings of a Regional Conference, Asian Development Bank*, Manila, Philippines, pp.519-529, 1995.

*"The Demand for Medical Care: Evidence from Urban Areas in Bolivia," *Living Standard Measurement Study (World Bank) Working Paper* No.123, 1996.

"Enhancing the Effectiveness of External Assistance: Social Impact of Adjustment Programs," *Proceedings for the Seminar for Deepening Structural Reforms and Policies for Growth in Africa*, Ministry of Finance of Japan, IMF and the World Bank, Paris, France. 1996.

「高齢化の経済分析」『経済分析』（八代尚宏氏，小塩隆士氏との共著）第 151 号，経済企画庁経済研究所，1997 年。

「教育における市場と政府の役割について－3 ヶ国の比較を中心に―」『市場と政府－ラテンアメリカの新たな開発枠組み』（小池洋一･西島章次編）第 13 章，アジア経済研究所，pp.387-426，1997 年。

「公共支出と貧困層へのターゲティング」『開発と貧困』（絵所秀樹･山崎幸治編）第 4 章，アジア経済研究所，pp.131-159，1998 年。

*「家計データからみた南アフリカ共和国の貧困分析―特に家庭内送金と移住行動について―」（赤林英夫氏との共著）『アジア経済』Vol.40，No.9-10，1999，pp.165-182。

*「風邪における医療サービスと大衆医薬の代替性に関する研究―独自アンケートに基づく分析―」（大日康史氏との共著）『医療と社会』Vol.9，No.3，1999 年，pp.69-82。

*「軽医療における需要の価格弾力性の測定―疾病及び症状を考慮した推定―」（大日康史との共著）『医療経済研究』Vol.6，1999 年，pp.5-17。

"Summary of Methods to Estimate Price Elasticity of Demand," *Handbook for the Economics Analysis of Health Sector Projects*, Asian Development Bank, pp.85-94, 2000 年。

「疾病ごとの医療受診と大衆医薬需要の代替性」（大日康史氏との共著）『医療サービス：市場化の論点』（瀬岡吉彦･宮本守編）第 5 章，東洋経済新報社，pp.75-89，2001 年。

*「インフルエンザ予防接種の需要分析」（大日康史氏との共著）『日本公衆衛生雑誌』Vol.48，No.1，2001 年，pp.16-27。

「医療経済」『医学生のお勉強』（黒川清編著）第 6 章，芳賀出版，pp.339-429，2002 年。

「患者負担増による医療費抑制効果」『医療白書 2002 年度版』第 2 章，pp.17-31，日本医療企画，2002 年。

*"Should the Coinsurance Rate be Increased in the Case of the Common Cold? An Analysis Based on an Original Survey," (with Yasushi Ohkusa) *Journal of the Japanese and International Economies* Vol.16, No.3, 2002, pp.353- 371.

*"Price Sensitivity of the Demand for Medical Services for Minor Ailments: Econometric Estimates Using Information on Illness and Symptoms," (with Yasushi Ohkusa) *The Japanese Economic Review* Vol.53, No.2, 2002, pp.154-166.

*「わが国における女性賃金水準の就業行動への影響の分析」（縄田和満氏との共著）『日本統計学会誌』32 巻，第 3 号，2002 年，pp.279-290。

*「疾病毎の医療受診と OTC 需要の代替性に関する分析」（大日康史氏との共著）『季刊･社会保障研究』38 巻，2 号，2002 年，pp.157-165。

「「ゲーム理論」の導入が抜本改革への近道」『ばんぶう』日本医療企画，pp.60-67，2002 年。

「医療費を考える：消費者の需要行動と医療の質から」『患者のための医療』篠原出版新社，pp.733-738，2003 年。

*「生活習慣と主観的健康評価についての実証分析」（両角良子氏との共著）『医療と社会』Vol.13，No.3，2003 年，pp.45-72。

*「横浜市における救急医療の需要分析」（大重賢治氏，縄田和満氏他との共著）『日本公衆衛生雑誌』Vol.50，No.9，2003 年，pp.879-889。

「社会保障」現代世界経済叢書『日本経済論』（植松忠博･小川一夫編著）第 10 章，ミネルヴァ書房，pp.227-250，2004 年。

*「職場の喫煙規制に関する実証分析」（両角良子氏との共著）『医療と社会』Vol.14，No.1，2004 年，pp.109-124。

*"Estimation of the Labor Participation and Wage Equation Model of Japanese Married Female by the Simultaneous Maximum Likelihood Method," (with Kazumitsu Nawata) *Journal of the Japanese and International Economies*, 18, 2004, pp.301-315.

*「眼科水晶体手術における在院日数の離散型比例ハザード･モデルによる分析」（縄田和満，石黒彩，川渕孝一氏との共著），2006 年，医療経済研究 Vol.18，No.1，pp.41-55。

「医療の基礎的実証分析と政策：サーベイ」（別所俊一郎氏との共著）2006 年，『フィナンシャルレビュー』第 80 号，pp.117-156。

*"The impact of smoke-free workplace policies on smoking behaviour in Japan,"(with Ryoko Morozumi) 2006, Applied Economics Letters Vol.13, pp.549-555.

*「水晶体の単眼･両眼手術における在院日数の分析」（縄田和満，石黒彩，川渕孝一氏との共著），『医療と社会』2006 年，Vol.16，No.2，pp.167-180。

「データに基づいた医療政策」『日本医師会雑誌』第 135 巻･第 12 号別冊，pp.35-48，2007 年。

"History of Health Insurance Systems in Japan from Meiji to Showa: From Nothing to Universal," Health Service and Poverty: Making Health Services More Accessible to the Poor edited by Hiroko Uchimura, Institute of Developing Economies. 2007.

「医療制度改革ー地方の負担の在り方を考える」『国際税制研究』2008 年，No.18， pp. 45-53

「日本の医療保険制度の歩みとその今日的課題」『医療と社会』2008 年，Vol.18，No.1，pp.207-220

「医療統計の体系化：統計委員会の基本計画に向けて」『医療経済研究』2008 年，Vol.20，No.1，pp.5-13

*「白内障手術におけるDPCによる包括支払制度の評価」（縄田和満，外山比南子，高橋泰氏との共著）『医療と社会』2008 年，Vol.18，No.2，pp.229-242

"Reducing Medical Expenses by Revising the Medical Service Fee Schedule: An Analysis of Cataract Treatments in Japan," (with K.Nawata, K.Kawabuchi and A.Ishiguro) *Journal of Applied Econometrics*

投稿中

*"Development of Social Health Insurance Systems: Retracing Japan's Experience," *MAKING HEALTH SERVICES MORE ACCESSIBLE IN DEVELOPING COUNTRIES*: Finance and Resources for Functioning Health Systems, ed. by Hiroko Uchimura, Palgrave Macmillan, 2009, pp.80-105.

「期待される医療統計のあり方」『病院』 医学書院 2009 年, Vol.68, No.2, pp.98-102。

「日本の医療保険制度」『経済セミナー』2009 年, 4･5 月号, No. 647, pp.65-71。

「医療政策に必要なのはデータに基づいた議論」『日本の医療は変えられる』 伊藤元重･総合研究開発機構編集, 東洋経済新報社, 2009 年。

「医療経済学」『「医療政策」入門』 東京大学医療政策人材養成講座, 医学書院, 2009 年 pp.97-114。

*"Evaluation of the Inclusive Payment System Based on the Diagnosis Procedure Combination with Respect to Cataract Operations in Japan," (with K.Nawata, H.Toyama,T.Takahashi), 2009, *Health* Vol.1, No.2., pp.93-103.

「社会的共通資本としての統計情報」『保健医療科学』2010 年, Vol. 59, No.1, pp.17-20。

*"Facilitators and barriers in the humanization of childbirth practice in Japan," (with R. Behruzi, M. Hatem, W. Fraser, L. Goulet, C. Misago) *BMC Pregnancy and Childbirth*, 10:25 (27 May 2010)

*「低所得世帯における社会保険と生活保護の現状に関する研究」（河口洋行との共著）『医療経済研究』2010 年 22(1), pp.91-108。

*"Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously? ," (with Y. Sawada, K. Nawata, M. J. Lee) 2010, *Journal of Money, Credit, and Banking*, 43(2-3) , pp.297-324

「医療費の範囲と「国民医療費」」（『医療経済学講義』橋本英樹･泉田信行編 東京大学出版会, 253-273 頁, 2011 年。

「先進国の医療制度改革と日本への教訓 ― オランダの家庭医療制度を中心に」『成長産業としての医療と介護―少子高齢化と財源難にどう取り組むか』八代尚宏･鈴木亘編 日本経済新聞社, 211-237 頁, 2011 年。

"Challenges in Reforming the Japanese Health Care System", The Economics of Public Health Care Reform in Advanced and Emerging Economies , International Monetary Fund (2012).

*「医師数, 医療機関数, 病床数, 患者数のバランスから評価した医療資源の地域格差とその推移」（関本美穂との共著）『厚生の指標』9 月号, 2013 年, 60 巻, 11 号, pp.1-8。

「高齢者に必要な医療･介護とは？――国民健康保険データ分析からの提言――」（森山美知子との共著）*ECO-FORUM* 29(2-3): pp.11-18, 2014 年 2 月。

「日本の患者は幸せか？【医療経済から見たプライマリ･ケアの重要性】」『環』2014 年, vol.56, pp.174-185。

"Protecting Our Lives through Healthcare Reform" *Japan SPOTLIGHT*, Jan/Feb 2014 , pp.16-19.

「社会保障財政における番号制の活用と課題」（吉識宗佳との共著）『病院』2014 年 6 月, Vol.73, No.6, pp.440-444。

「プライマリ･ケア研究事始め ― 次世代の医療制度の研究-」『ヘルスリサーチ 20 年 ― 良い社会に向けて― 』公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 20 周年記念誌, 2014 年, pp.53-63。

*"Supplier-Induced Demand for Chronic Disease Care in Japan: Multilevel Analysis of the Association between Physician Density and Physician-Patient Encounter Frequency," (with Miho Sekimoto) *Value in Health Regional Issues* 6C ,2015,pp.103-110.

「日本のプライマリ･ケア制度の特徴と問題点」（関本美穂との共著）『フィナンシャル･レビュー』2015 年,

pp.6-63。

「地域医療･介護の費用対効果分析に向けて」責任編集 『フィナンシャル･レビュー』123 号，2015 年，pp.6-63。

「医療サービスの質の向上と財政を両立する医療提供体制の在り方」『租税研究』 2015 年，787 巻，pp.17-49。

"Evolving Health Policy for Primary Care in the Asia Pacific Region,"(with van Weel Chris, et al.) *British Journal of General Practice*, 2016 Jun, 66(647), e451-3.

「保健医療統計の陥穽～国際比較をめぐって～」『医療経済学会 10 周年記念誌 医療経済研究のこれまでとこれから』，pp.6-9，医療経済学会，2016 年 6 月 30 日。

「地域医療の支払い制度：医療は誰のためにあるのか」『医療･介護に関する研究会』報告書 財務省財務総合政策研究所，2016 年，pp.5-32。

「医療費の範囲と「国民医療費」」（『医療経済学講義 補訂版』橋本英樹･泉田信行編 東京大学出版会 253-274 頁 2016 年。

「高い国民幸福度を支えるデンマークの家庭医療とは ～家庭医療先進国研修ツアー報告～」藤原学，山内健士朗，井伊雅子，葛西龍樹 『日本プライマリ･ケア連合学会誌』2018 vol.41,no.2, p.75-77。

「［特集 1］プライマリヘルスケア 40 周年：医療経済学とプライマリ･ケア」『国際保健』 2018 vol.33 no.2,p.99-104。

"Are Japanese People Satisfied with Their Health Care System and Services? Empirical Evidence from Survey Data," (with B Niu) *Health Policy* 2019. （出版予定）

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告･招待講演には*）

*Chair, Symposium: Health Care Financing, Asia Pacific Regional Conference of the World Organization of Family Doctors (WONCA) 2014, 22nd May 2014, Kuching, Malaysia

"The role of primary health care in controlling the cost of specialist health care, " 討論者，国際シンポジウム「高齢者医療･介護統合モデルの構築と政策への適用(Managing Integration of Long Term Care of Elderly)」 品川グース 2014 年 9 月 28 日 品川，東京

*「幸せな日常を守るための医療制度改革とは？」 2014 年 Oral Physician チームミーティング， 酒田市 2014 年 10 月 5 日 招待講演

Speaker, Plenary Symposium "Primary Health Care Policy Implementation", Asia Pacific Regional Conference of the World Organization of Family Doctors (WONCA), March 05 – 08 2015, Taipei, Taiwan

「費用対効果の情報をどのように伝え，どのように活用すべきか？」国際医薬経済･アウトカム研究学会(ISPOR) 日本部会 第 11 回学術集会 第 3 部パネルディスカッション，2015 年 8 月 30 日，星陵会館

「医療のあり方を経済学で考える」第 25 回日本医療薬学会年会 特別講演，2015 年 11 月 23 日，パシフィコ横浜

「プライマリ･ケアの必要性：患者の視点から」，『熊本県のこれからの地域医療の方向性を見据える』熊本大学臨床医学教育研究センター奥窪記念ホール 招待講演 熊本県地域医療支援機構主催 2017 年 3 月 4 日

「医療システムにおけるイノベーションと持続可能性の両立に向けて」 グローバル専門家会合 パネリスト 2017 年 4 月 14 日 日本医療政策機構･米国戦略国際問題研究所 共催

日本フライマリ・ケア連合学会 学術大会「家庭医療の包括的診療を反映する 診療報酬及ひ医療制度のあり方を探る」 2018 年 6 月 17 日

（b）国内研究プロジェクト

「高齢者医療・介護統合モデルの構築と政策への適用ー 日米欧 8 カ国の国際共同研究ー」 2012－2016 年度 科学研究費補助金基盤研究（A），研究分担者 （研究代表者：河口洋行）

「質と財政の両立を目指した医療制度構築のための基礎研究」 2013 － 2017 年度，科学研究費補助金基盤（B），研究代表者

『中央社会保険医療協議会における医薬品・医療機器の費用対効果評価再分析に関する研究』班 研究分担者，2014 年度，厚生労働科学研究費補助金 行政政策研究分野【補助金】厚生労働科学特別研究研究協力者（研究代表者：福田敬）

「日本の社会政策の成功と失敗：アジアは何を学べるか」 2015 － 2017 年度，科学研究費補助金基盤研究（A），研究分担者（研究代表者：チャールズ・ユウジ・ホリオカ）

「ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルの拡張とその社会保障制度改革への応用」 2015 － 2017 年度，科学研究費補助金基盤研究（B），研究分担者（研究代表者：稲垣誠一）

「不確実性下の健康診断：非合理な効用関数を持つ被験者の確率評価とその政策的含意」 2018 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 （研究代表者：井伊雅子）

「不確実性下の医療：情報と合理的意思決定の分析」 2018 － 2022 年度 科学研究費補助金，基盤（B），研究代表者（井伊雅子）

（d）研究集会オーガナイズ

財務省財務総合政策研究所 「地域医療・介護の費用対効果に向けて」2013 年 －2015 年 座長

機関誌『フィナンシャル・レビュー』論文検討会議 財務省 2015 年 2 月 5 日

財務省財務総合政策研究所 「医療・介護に関する研究会」 2015 年 座長

6. 学内行政

（b）学内委員会

ハラスメント対策委員会委員（2014 年 － ）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会委員（2009 年 － ）

東京医科歯科大学医学部非常勤講師（2010 年 － ）

神戸大学医学部客員教授（2009 年 －2013 年）

（b）所属学会および学術活動

日本経済学会，International Health Economics Association， 医療経済学会

（c）公開講座・開放講座

IMF ラガルド専務理事主催 有識者・アナリストとの朝食懇談会，Breakfast Meeting with Academics and

Analysts International Monetary Fund, 帝国ホテル, 2014 年 9 月 12 日

「医療経済の視点からの医療制度改革」 大阪府私立病院協会事務長会, 2014 年 11 月 28 日

「医療の在り方を経済学で模索する」 第 700 回社会保険特別研究会, 東京會館, 2015 年 1 月 26 日

「医療サービスの質向上と財政を両立する医療提供体制の在り方」 第 142 回 TCER（東京経済研究センター）セミナー 日本工業倶楽部 2015 年 4 月 3 日

「医療サービスの質の向上と財政を両立する医療提供体制の在り方」 日本租税研究協会, 財政経済研究会 2015 年 5 月 14 日

「医療サービスの質向上と財政を両立する医療提供体制の在り方」 日本学術会議経済学委員会「持続的発展のための制度設計」 分科会で報告, 日本学術会議, 2015 年 5 月 26 日

財務省財務総合政策研究所(MOF PRI)・国際通貨基金財政局(IMF FAD)・アシア開発銀行研究所(ADBI) Tokyo Fiscal Forum on "Fiscal Policy for Long-term Growth and Sustainability in Aging Societies" セッション 2『財政支出に関する課題:高齢化社会における社会保障支出』討論者 三田共用会議所 2015 年 6 月 10 日

「国の医療とスポーツのかかわりについて」UA ゼンセン 2015 年度 第一回スポーツシンポジウム, 2015 年 7 月 8 日

「医療制度改革—費用対効果分析の視点から」 日本経済研究センター政策懇談会, 日本経済新聞社東京本社ビル, 2015 年 8 月 4 日

「医療費は抑制できるのか」 大和総研理事会, グラントウキョウ ノースタワー, 2015 年 9 月 16 日

「日本の社会保障の未来～医療改革を中心に～」 2015 年度第 8 回 NTT-GLOCOM 研究会, 2016 年 3 月 3 日

財務省財務総合政策研究所(MOF PRI)・国際通貨基金財政局(IMF FAD)・アシア開発銀行研究所(ADBI) Tokyo Fiscal Forum 2016「高齢化社会における長期的な成長と財政の持続可能性に向けた財政政策：持続可能な社会保障支出の達成」 セッション 2『持続可能な医療制度を達成するための方法』討論者 三田共用会議所, 2016 年 6 月 6 日

「医療・介護制度改革の課題：2025 年度を見据えた医療・介護制度のあり方」参議院事務局 2017 年 1 月 24 日

Town Hall Meeting with IMF 専務理事 Christine Lagarde for JISPA Scholars 2017 年 11 月 8 日 ホテルオークラ

ニッセイ基礎研究所 「保健医療制度の費用対効果を考える」 2017 年 11 月 20 日

丸の内政経懇話会 「日本の医療の質について：医療経済学の視点から」 三菱クラブ 2018 年 4 月 19 日

「プライマリ・ケアの質をどのように測るのか」 一橋大学政策フォーラム「データから見る日本の医療」 2018 年 5 月 18 日

「プライマリ・ケアの質をどのように測るのか」 内閣官房社会保障改革担当室勉強会 2018 年 5 月 25 日

「テーマ4： 医療の質の評価と支払制度」 一橋大学 HIAS Health 社会連携プログラム 医療経済短期集中コース 2017 年 11 月 17 日

（d）高校生向けの出張講義・模擬講義

大妻高等学校 模擬講義 2014 年 11 月 19 日

（e）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

日本経済学会 2016 年度秋季大会実行委員会プログラム委員長
公益財団法人 日本国際問題研究所(JIIA)内 太平洋経済協力会議（PECC）日本委員会委員（2016－ ）
財務省財務総合政策研究所 「医療・介護に関する研究会」 座長（2015 年 －2016 年）
日本学術会議 経済学委員会「持続的発展のための制度設計」分科会委員（2014 年 10 月 － ）
株式会社 デサント 社外取締役（2013 年 6 月 － ）
公益財団法人 総合研究開発機構 客員研究員（2014 年 11 月 －2015 年 3 月）
公益財団法人東京経済研究センター 理事（2012 年 －2014 年）
医療科学研究所 理事（「医療と社会」編集委員，研究員育成委員）（2014 年 － ）
財務省財務総合政策研究所 フィナンシャル・レビュー 編集審査委員（2013 年 － ）
社会保障人口問題研究所「海外社会保障研究」編集委員（2011 年 －2014 年）
公益財団法人二十一世紀文化学術財団 海外留学助成金 審査委員（2009 年 － ）
ファイザーヘルスリサーチ振興財団理事（2010 年 － ）
医学書院「病院」編集委員（2011 年 －2014 年）
NPO「医療の質に関する研究会」患者図書室プロジェクト 審査委員
「医療経済研究」編集幹事（2004 年 － ）

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

NHK 経営委員（2015 年 3 月 － ）
日本学術会議 連携委員（2014 年 －2017 年）
日本学術会議 委員（2017 年 － ）
東京都医療審議会 委員（2014 年 － ）
政府税制調査会委員（2013 年 － ）
財政制度等審議会 委員 （2010 年 －2015 年）
法制・公会計部会 委員 （2011 年 －2015 年）
内閣府 政策コメンテーター（2014 年 － ）
内閣府 少子化危機突破タスクフォース（2013 年 －2014 年）
厚生労働省 費用対効果評価専門組織（本委員）の保健医療専門審査員（2016 年 － ）
独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（審査委員）（2016 年）
　審査第一部会経済学小委員会 2016 年 2 月 22 日
　審査第二部会経済学小委員会 2016 年 2 月 23 日
独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（審査委員）（2017 年）
　審査第一部会経済学小委員会 2017 年 2 月 21 日
　審査第二部会経済学小委員会 2017 年 2 月 22 日
　審査第二部会人文社会系複数細目小委員会 2017 年 2 月 24 日
　審査第二部会複数細目小委員会 2017 年 2 月 24 日
平成 27 年度 厚労科研費（政策科学推進研究事業）評価委員（2016 年 － ）
内閣府地域活性化推進室 総合特区 ライフ分野専門委員会委員（2014 年 －2015 年）
文部科学省平成 27 年度新学術領域研究審査委員（2014 年 －2015 年）
文部科学省特定領域研究専門委員会 委員（2006 年 1 月 －2006 年 12 月，2007 年 1 月 －2007 年 12 月，

2008 年 12 月 1 日 －2009 年 11 月 30 日，2010 年 12 月 －2011 年 11 月，2011 年 12 月 －2012 年 11 月）

日本学術振興会　博士課程　教育リーディングプログラムにおける書面レビュアー　2012 年 7 月

日本学術振興会　特別研究員等審査界専門委員及び国際事業委員会書面審査員（ －2015 年 7 月）

内閣府地域活性化推進室　総合特区検討会委員 （2014－2015 年）

内閣府　今後の経済財政動向等についての集中点検会合にて意見報告　2013 年 8 月 28 日

「社会保障財政とマイナンバーの活用」 税制調査会（第1回マイナンバー・税務執行ディスカッショングループ）にて報告　財務省　2013 年 11 月 8 日

平成 26 年政策コメンテーター委員： 報告

第 1 回（意見照会期間：2014 年 8 月 22 日 －9 月 4 日）

第 2 回（意見照会期間：2014 年 9 月 24 日 －10 月 6 日）

第 3 回（意見照会期間：2014 年 10 月 24 日 －11 月 5 日）

平成 27 年政策コメンテーター委員会：報告

第 1 回（意見照会期間：2015 年 1 月 20 日 －1 月 30 日）

第 2 回（意見照会期間：2015 年 2 月 27 日 －3 月 12 日

第 3 回（意見照会期間：2015 年 4 月 1 日 －4 月 15 日）

第 5 回（意見照会期間：2015 年 8 月 18 日 －8 月 28 日）

平成 27 年　政策コメンテーター委員会　報告会にて報告　ホテルニューオータニ　2015 年 7 月 17 日

平成 28 年　政策コメンテーター委員会：報告　第 1 回（意見照会期間：2016 年 2 月 12 日 －2 月 22 日）

平成 28 年　政策コメンテーター委員会　総会　ANA インターコンチネンタルホテル東京　2016 年 7 月 20 日

9. 一般的言論活動

日本経済新聞やさしい経済学「医療の公平性」を連載　2014 年 2 月 17 日 －2014 年 2 月 28 日（「医療の在り方を経済学で模索する」『身近な疑問が解ける経済学』（日経文庫）2014 年 9 月　pp.115-136 に収録）

「日本の医療制度改革，明日への処方箋：日本の医療は世界一なのか」朝日新聞社　WEBRONZA 2015 年 1 月 21 日

「日本の医療制度改革，明日への処方箋：日本の医療は世界一なのか（2）」朝日新聞社　WEBRONZA　2015 年 2 月 26 日

「日本の医療制度改革，明日への処方箋：過剰医療の実態と医療介護費の増加」 朝日新聞社 WEBRONZA 2015 年 4 月 7 日

「医療分野の改革の方向性」NIRA 研究報告書「社会保障改革しか道はない」2015.5 pp.9-26.

「経済学からみたこれからの医療」 西村周三氏との対談 『病院』2015 年　74 巻　pp.381-386.

「今の医療でいいの」『教養としての経済学』有斐閣　2013　年　pp.67-71　蛍雪時代　7　月号臨時増刊　全国大学推薦・AO 入試合格対策号《大分大学経済学部の入試問題として》」2015 年 6 月 30 日

「インタビュー連載第 33 回女性経済学者を訪ねて：データをもとに，丁寧な分析を」『経済セミナー』2015 年 8・9 月号　pp.5-10.

「日曜に考える：社会保障改革　実行へ何を」『日本経済新聞』2015 年 8 月 16 日

「医療経済領域を知る文献」『病院』2015 年　74 巻　pp.766-769.

「幸福のための取捨選択」『医療と社会』 巻頭言　Vol.15 No.4 2016.

日本経済新聞　私見卓見「専門医制度の導入を急げ」2017 年 4 月 14 日

「新医療経済学：医療の費用と効果を考える」『経済セミナー』2017 年 4･5 月号　No.695 より 一年間（6 回）の連載（五十嵐中，中村良太との共著）

1「なぜ医療で「経済学」なのか」 2017 年 4･5 月号　No.695　pp62-70.

2「情報と医療：不確実性の下での意思決定と情報」2017 年 6･7 月号　No.696 pp.73-82.

3「医療経済学と「行動」行動変容、どうやって起こす？」2017 年 8･9 月号　No.697　pp.80-89.

4「費用対効果評価と、その政策応用」2017 年 10･11 月号　No.698 pp.59-68.

5「医療経済学とエビデンス」2017 年 12･1 月号　No.699 pp.69-79.

6「医療政策に社会的価値観を反映させる」2018 年 2･3 月号　No.700 pp.66-75.

『専門性の高い「かかりつけ医」の導入で：費用対効果の低い日本の医療構造にメスを』 Wedge 2017 年 10 月号　pp.26-28.